

「第5回・銀座書斎入居ビル・清掃活動」
(2019年新年の大掃除) リポート

2019年1月13日(日)実施

2019年1月24日(木)提出

英語道弟子課程 弟子 M.U.

2019年1月13日(日)「第5回・銀座書齋入居ビル・
清掃活動」を実施させていただきました。

<持参したもの>

- ・タオル 5枚
 - ・タオル① 4枚
 - ・マイクロクロス 3枚
 - ・ミニ箒・塵取り
 - ・ブラシ
 - ・スポンジ
 - ・レジャーシート
 - ・新聞紙
- ） 屋上に移動させていた「くもの下」に敷く目的。
- ・トイレ用除菌シート
 - ・ゴム手袋 3組 (手にひびいたりするもの。
指先の感覚が「ほっきりわかるので」
作業しやすかったです。)
 - ・割り箸 (こびり付いた汚れを取る目的で、
使いやすいくらいに自分自身で削ったもの。)
 - ・スフロー (油汚れに特化したもの)
 - ・500mlのペットボトル
(水を入れ、1階の外の入り口を磨く際に使用)

<お借りしたもの>

- ・バケツ 2つ
- ・箒・塵取り
- ・トイレ用ブラシ
- ・トイレ用スフロー

私にとりまして第一回目の清掃活動、生井先生とのお約束の時間は10時でしたが、先生は「いつも(英語稽古)と違うから」と、少し早めに銀座書齋の中へと通してくださいました。

参考にさせていただいた、他の弟子の方々の清掃活動に関するリポート等のお話を伺った後、先生より「特にどこをきれいにすることが重要だ」と思いませんか」と質問を受けました。

・1階の入り口

・1階から3階の階段

先生のお考えと私の認識が合っていることを確認させていただくことができました。

その後、お部屋の外へ出て、階段脇の窓の開け方に関する注意点を、先生が一つひとつ実際に全ての窓を開けながら教えてくださいました。「丁寧に」「丁寧に」と。この言葉がとても印象に残っています。大抵は、一ヶ所だけ実際にやって見せ、特に注意する窓以外は、「他の窓も同様に」と言って済ませてしまうのではまいいかと思いました。

お部屋へ戻り、バケツ2つと箒・塵取りをお借りしました。

着替えを済ませ、埃がからまないよう植物をいったん屋上へ運びました。

5階から上に飾られていた大抵はお手数の数々も、慌んだ末、植物と同様に屋上へと移動をさせていただきました。

絵画に関しては、直射日光に当てることはよくないと思い、
屋上へは出さず、新しい白いタオルで覆わせていたいただきました。

ただ、大きい方の絵は、タオルで全てを覆いきれず、中途半端の
ままにしてしまったため、覆った後、せめて裏返しにする等、
もっと考えるべきだったと反省しました。

K.H.さんのレポートに、スリッパを履きかえりマットを屋上で
乾かされたことありました。とてもいいideaだと思いましたので、
私もそのようにさせていたいただきました。

ここから「掃き」のstartです。

先生とお約束した終了時刻は、12時40分でした。

この日は、7時から森の中ビリーに於いて、他の弟子の方向
自習をされる予定。

先生は、その前に帰って掃除を土下と仰っていました。

この時点で、すでに「終わるにしようか...」と、私は不安に
なっていました。

まずは、6階から5階です。

ここは、靴を脱いで「上がり」ところなので、持参したミニ箒・
塵取りを使いました。

「急がたい」という余裕のなごから、自分自身、
作業をしたがら音を立ててしまっていることに気がきました。

もちろん、生#先生はお気付きたったのでしょう、途中、
「13時までにはしましう。慌てはくといいですから」と
仰ってくださいました。

お借りした2つのバケツの使用法で“すぐ”生井先生にお話を
させていただいた上で、片方のバケツだけに水を入れ、
もう一方には、すぐに使えるよう水で絞ったタオルと、
乾拭き用のタオル数枚を入れ子という形で利用させて
いただきました。

T.A.さんのレポートにもありましたように、タオルであれば
面を変えて使用できます。

事前に、水で絞ったタオルをタオルに用意することで、水を取りかえる
回数を減らし、中でお仕事をされている先生のお邪魔を
少しでも減らすにはと思ったからです。

6階から5階までを拭き終えた後、清掃道具を
お借りし、トイレ掃除を行いました。

ブラシの届かない便器の奥は、入るところまで手を入れて
行いました。

手を洗うところ・便器・床は、いったん拭いた後、持参した
トイレ用除菌シートで再度拭かせていただきました。

トイレ掃除をさせていたときから、とてもシンプルな便器に時代を感じました。

今時の便器は、シャワー付や便座を温める機能は当たり前のように付いています。蓋や便座が自動で開閉、自動洗浄で洗剤を入れるタンクのあるものもあります。シャワーのノズルがステンレスのものを見た時には驚きました。

これらは、便利・快適・衛生的ではありますが、「本当にそこまで必要？」と疑問に思うものもあります。

「便利」「快適」は、ことによっては人間を退化させてしまうのではないかと思います。

次に、5階から1階までと、生井先生とH.K.さんがお忙しい中、ご準備くださった箒と鹿耳取りと使わせていただき掃いていただきました。

箒の当たりがやわらかく使いやすく、掃いた時の音は、とても優しかったです。

階段脇の段々にはおているところや、窓の残骸などは、ミニ箒で掃きました。

そして、磨き・拭きに入りました。

拭きながら細かなゴミが落ちてきます。

階段の滑り止めに行着していた固いものは、
持参した割り箸を使い削ぎ落としました。

これらのゴミは、ミニ箒を使い集めながら作業をしました。

問題の1階から3階の汚れの原因については、昨年の12月の
英語稽古に於いて、何度か先生とお話をさせていただいて
おりましたので、予想される原因に対応したスプレーを
使用し、磨いていきました。

階段に座り、顔を近づけたから作業をしていると、
3階から臭いが変わりました。

やはり油でした。

ブラシで磨き続けていると、酸化した強烈な油の臭いが
鼻を突き、途中、少し気分が悪くなりました。

1階に着く頃には、「皆が大抵に思っているこの場所を、
どうしてこんなに汚すのか」という怒りの気持ちを超え、
とても悲しい気持ちになりました。

生井先生とお約束した時間を、1時間近くもオーバーし、
清掃を終えました。

1時間といえは、1日の24分の1です。

それほどもで多くの先生のお時間を無駄にしてみました。
本当に申し訳ありませんでした。

実際は、申し訳ないでは済ませないことなのだと思っております。

ここからは、今回の清掃活動を通して感じたこと、考えたこと、
過ったことを記させていたただきたいと思っております。

お借りしたバケツ2つと箒・塵取りは、先生が机の下から
取り出してくださっていました。

「机の下」ということは、先生のお足下になるということです。

狭くなりまがし、取り出すにも時間を要し、お手を煩わせて
しまいました。

この時、自分たちが使わせていただくものであり、また、あのように
場所をとるものを、銀座書齋に置かせていただいているよというた
ろうか……いや、よくないと思われました。

埃がからたほう、飾られているものを移動させていた
いた時、かなり重いものもありましたし、時間もかかりました。

先生は、今回私が移動させていた数を選かに
超えるものを一人で移動させ、私たちのために模様替之
や、季節のデコレーションを行ってくださっています。

続く。→

→ 続き

それが"どれだけ大変なことか、どれだけ時間を要するか、
ほんの僅かではありまが" 触れさせていただけただけで、
自分は何もわかっていなかった、先生に対する感謝の
気持ちがいかに表面的であったか、口だけであったか
ということに気がさせていただけのことか" できました。

また、節らぬものは、少しでも触れたら崩れてしまう
バランスを保っていました。

これは、常にこういった状況(「針の先端に立つ」)に身を置く
ようにという先生からの教え、また、生井先生ご自身の
高次のレベルにおいてご自身を厳しく律し続けるという
お気持ちを表象しているの"と" 感じました。

今回の私の清掃活動は、今の自分自身の姿(生き方、
勉強の仕方)が"そっくりそのまま露呈した" と思います。

・ 物動かさせていただったものの、
元あった場所を忘れてしまった。

・ 5階から下の窓の閉め忘れ。

集中力が"ない。

危機感が"ない。

・ 段取りが"悪く、時間を有効に使えていない。

・ 「こっちもやろう、あっちの汚れも気になる」と、よそ見をするため、
全てが"中途半端" となった。

屋上へと移動させていたために木植物とお手紙は、少し風もあったため、6階から5階の清掃を終えた時点で屋内に入れるべきでした...というより、観葉植物を外に出すこと自体、やってはならないこと。

生井先生が我が子のように大切に育てられているものを、外の冷たい空気に長時間当ててしまったということでした。

正直に言うと、5階から下を清掃していた時に気がいたのですが、時間のことが気になり作業を続けてしまいました。

↳ 自分中心に物事を考えている。

私は、いったん掃除を始めると、きりなく行ってしまうため、事前に先生にご相談をさせていただき、終了時刻を決めていただけたことで、現在の自分自身の有様をはっきりと知ることができました。

「限られた時間で清掃を行う」、これは、

「限りある“生”のなかで、いかに自分自身を磨き抜くか」と、

問われているようにも思いました。

再確認：

無駄を除き、目的を絞り、必要なことのみを行う。

よほどのことがない限り、だれもが自分専用の部分は、きれいに
使おうとします。生井先生からは、「経営者は、お金を生む場所だけを
きれいにする」とも伺いました。

共用部・公共の場をきれいに使おうとする人は稀です。

掃除をしているそばから汚されていく、これは仕事を通して
私が毎日見ている現実です。

草の根的に、少しづつでも続けていくしかありません。

だれかがやらなければ、汚れていく一方です。

だれか... 自分がやらせていただくのです。

こちらが清掃の機会を賦予していたにしているにも関わらず、
生井先生は「ご苦労様です」と、何度も声をかけてくださいました。
とても有難いと感じました。

他の弟子の皆さんと、お互いの活動の様子を共有させていただきながら
この清掃活動に参加させていただけることは、とても嬉しく、
楽しく、また、ほんとに私は幸運な方だと思います。

今後の清掃活動を通じて、何らかの思いやから、多くのことを
学ばせていただきたいと思います。

この学びの機会を賦予してくださった、神塚と生井利幸先生に
心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。